

## 一夏季大学雑感一

### 第10回夏季大学「新しい気象」講座雑感

気象協会道本部 若林徳司

日本気象学会北海道支部では気象学の啓蒙普及活動の一環として、毎年、気象講演会と夏季大学講座を開催しております。

本講座は“科学の箱舟”として札幌市民から親しまれている札幌市青少年科学館との共催により、毎年、夏休み期間中に開催をしております。

この講座は今年で第10回を数え、その歴史の長さを感じるとともに、その間、多くの学会員を始めとして青少年科学館の担当者の大変なご苦勞に対して深く敬意を表します。また、何よりもこの講座に熱心にご参加いただいた聴講生の皆さんに感謝いたしたいと思います。

この様に皆さんにささえられて毎年開催しているものの、担当幹事としての悩みは、身近で生活と密接な関わりのある気象学、または判りやすい気象学という意味での演題探しと講師の依頼であります。これがなかなかの難問で結局は例年テキスト作成期限ぎりぎりの6月の上旬に決定することになります。従って原稿を依頼された講師各位やテキスト、アブストラクト印刷担当の青少年科学館の水野氏に随分なご迷惑をかけています。

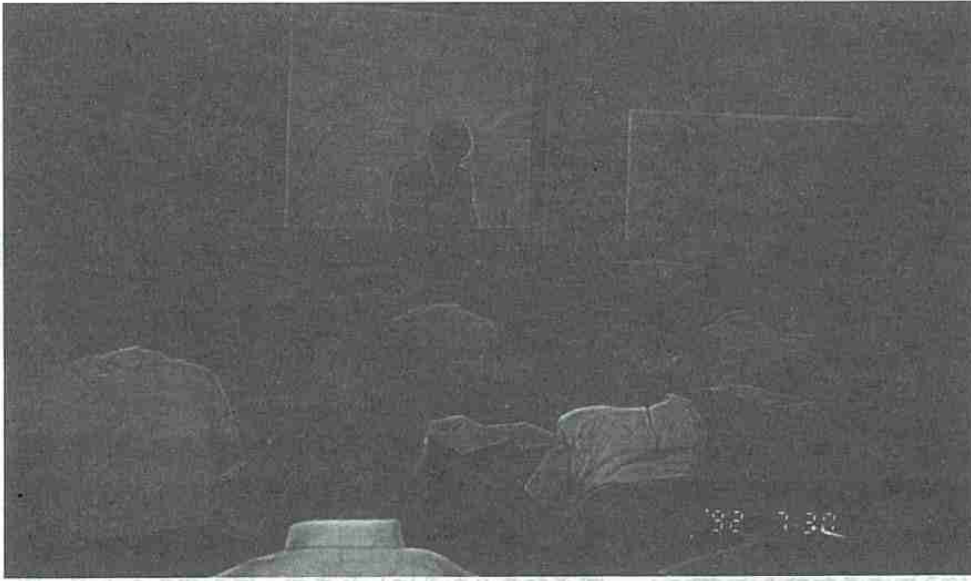
今年こそ、この泥縄式から脱出することを目標にとり組んで来ましたが、結果的には例年と同じになってしまいました。しかし、関係各位の献身的な努力により何とか開催に漕ぎ着けることが出来、今はホッと胸をなでおろしたところです。

今年の講座は7月30日と31日の蒸し暑いさかりに行われ、会場は第1日目が気象協会北海道本部会議室、第2日目は札幌市青少年科学館実験室でいずれも冷房のきいた室で環境としては申し分ないものでした。ただ、気象協会で開催するのは今回が最初のせいか、会場を間違えたり、建物を探すのに時間がかかったなど開講時間に間に合わない人達が続出するハプニングがあり、第10回の記念にと計画した表彰式を繰り下げて行なう事となったのは残念でした。

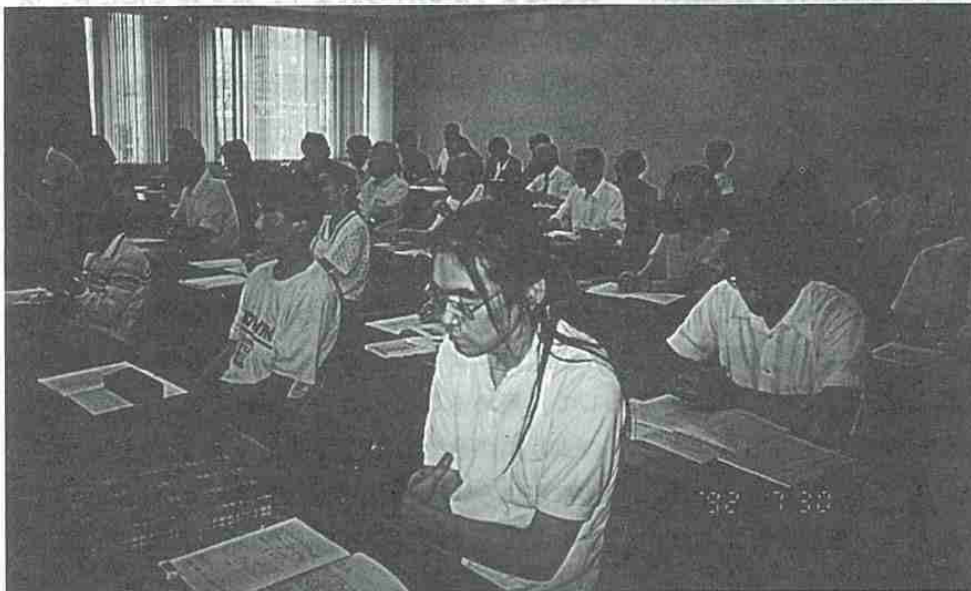
しかし、小・中・高等学校の先生を始めとし、小学生・高校生・大学生・および一般の多くの方々が参加され、今更ながら気象に興味をもたれている人達の多さに感心させられました。

講義は、最近の利雪・克雪をとらえた「吹雪・吹きだまり」、雲仙不賢岳の爆発に関連して「火山と環境」、流通産業界に利用の拡大が見られる「長期予報とその利用」などを用意しました。各講師にはOHPやスライドを駆使しながら、いずれも予定時間をオーバーするほどに熱心に講演をしていただき、また聴講生の方々からも活発な質問が寄せられ活気ある講座になったことは言うまでもありません。

最後になりましたが、この講座開催に当たり、会場の設営などの事前準備をしていただいた、気象協会北海道本部総務係、札幌市青少年科学館の学芸係の皆様にはこの紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。



◀開講式あいさつ



◀受講風景



◀表彰式